

メニエール病

難聴・耳鳴り

「脳血管障害」や「低血圧」「頭痛」など、さまざまな疾患の症状として表れるめまい。中でも、激しいめまいとともに、耳鳴り、難聴に襲われる「メニエール病」は、厚生労働省が特



定疾患(難病)として指定する厄介な病気だ。30~50歳代の働き盛り、それもきちょうめんでストレスを受けやすい人に多く発病するとされる。この疾患について紹介する。

(ジャーナリスト・寺嶋 文)

厚労省が指定の厄介な特定疾患

「メニエール病」は、聴力と平衡機能をつかさどる内耳に余分なリンパ液がたまる、つまり内耳が水ぶくれの状態になることで起きる疾患である。

ストレスや疲労、睡眠不足などの影響が言われるが、はっきりとした原因は不明である。「メニエール病」の特徴は、めまい、耳鳴り、難聴、吐き気、時には吐き気や嘔吐(おうと)を伴うこともある。

主な症状は、目の前がグルグルと回る回転性のめまいと、それに伴って起こる耳鳴りと難聴。めまいは1~6時間程度続き、時には吐き気や嘔吐(おうと)を伴うこともある。

「メニエール病」の特徴は、めまい、耳鳴り、難聴、吐き気、時には吐き気や嘔吐(おうと)を伴うこともある。

30~50代の働き盛りに要する注意

発作の頻度には個人差があり、初回から2回目まで数カ月、長い場合は数年を経過することもあるため、最初の発作だけで確実な診断をつけるのは難しいとい

う。治療は、内耳の水ぶくれを防ぐための利尿剤、炎症を抑えるステロイド剤といった薬剤の投与が主だが、重度の場合には手術が必要になることもある。

「めまいを伴う」突発性難聴など、似た疾患と区別するためには、2~3カ月の経過観察が必ず

重度の場合には手術が必要

予防法としては、疲労、睡眠不足などに注意し、ストレスをためないよう心がけること。また、気圧の変化や天候不順にも影響を受けやす

ぐるぐる激しいめまい、耳鳴り、難聴



思い込まずに

確定診断

多様な「めまい」

「一口に「めまい」と言っても、その種類は非常に多様だ。寝返りやおしぎの際などに感じる「頭位性めまい」をはじめ、ウイルス性で風邪の後などにかかりやすい「前庭神経炎」に多様な原因や症状

もさまざまである。めまいの中で、「メニエール病」が占める割合は非常に少なく、人口10万人に対して15~18人だ。

また先日、長嶋茂雄氏が発病した「脳梗塞(こうそく)」のように、中枢神経系に由来するめまい、耳鼻咽喉科を受診しよう。症状がなければ、たとえ嘔吐を伴うような激しいめまいでも、取りあえず耳鼻咽喉科を受診しよう。

いずれのめまいにしても、大切なのはきちんとした確定診断をつけること。めまいはたまたまの貧血といった素人判断が最も危険だ。



寺嶋 文(かさい・はじむ) 1950年(昭25)三重県生まれ。医学博士。77年千葉大学医学部卒業。同大学耳鼻咽喉科教室などを歴任。90年寺嶋クリニック(横浜)開設。99年寺嶋耳鼻咽喉科クリニック・自由が丘診療室を開業し、現在に至る。

「メニエール病は完治が困難な疾患。発作の予測も難しく、発作を繰り返すことで難聴も進みます。だからこそ主治医と相談しながら、投薬などで疾患をコントロールしていくことが大切なんです」(寺嶋医師)

「メニエール病は完治が困難な疾患。発作の予測も難しく、発作を繰り返すことで難聴も進みます。だからこそ主治医と相談しながら、投薬などで疾患をコントロールしていくことが大切なんです」(寺嶋医師)

進行学や就職など新生活がスタートするこれらの時期だけに、ストレスや疲れをためないよう注意したい。